

令和5年10月31日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

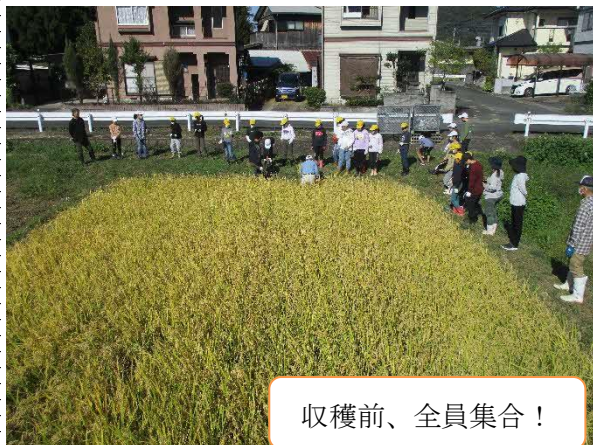
き ず な

す げん き みどり さと おお くさ の
住 み よ い 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

稲刈り、バッチリできました！ 10月19日：木曜日

すっごくいい天気で澄んだ美味しい空気を感じながら、みんなで楽しく、昔ながらの実りの秋を体験することができました。

田中会長のあいさつは、稲刈り用の特別な鎌を使うので、子ども達が「ケガをしないことが一番大切ですよ！」という注意がありました。6月15日に行った田植えからも4ヶ月が過ぎました。田植えの時に「おいしくなあれ、おいしくなあれ、萌え萌え、キュンキュン！」とかけたおまじないは、さて



収穫前、全員集合！

さて効果があったのでしょうか？ 最初、ちょっとだけ戸惑っていた様子の子も達も、すぐに順応して稲を刈ってしまうのはすぐに終了。そのあとの稲束を結ぶ作業にもコミュニティのGメンに教わりながら挑戦していました。それから、圃場の中にある落ち穂もちゃんと拾って、給水タイム。給水タイムのあと、ひとり一人が稲束から穂を落とす作業も体験しました。実働時間1時間ほどで、左のような田んぼが、左下のような姿になりました。5年生のみんなは、今日の稲刈り体験をそれぞれどう思ってくれたのでしょうか？ 保護者の方々は、ぜひ感想を聞いていただくことで、家庭内のだんらのネタにしていきたいと思います。子供たちは、大人がついていけないほどにあっという間に成長

してしまいます。貴重な日々を大切に過ごしてください。

コミュニティのGメンも応援しています。

頑張れ！
ホタルっ子！



1時間後、丸坊主！



◎丹生神社 秋祭り◎ 4年ぶりに開催（10月23日：月）

令和2年から始まったコロナ禍によって、ひっそりと神事だけが行われていた丹生神社のお祭りに、3年間のブランクを経て子ども達の歓声が戻ってきました。

大草野地区の中では大きな行事として、営々として取り組まれてきた丹生神社の秋祭りに、久しぶりにたくさんの人たちが集まりました。コロナ感染は、まだまだ油断はできない状況ではありますが、水の神様はこの子どもたちの元気な声を聞いてさぞ喜んでおられることだろうと、



やっと戻ってきた賑わい^^



壮烈な女の闘い！

熱戦を観ながら思いました。

先輩方の

話では、コロナ禍前はもっと来賓の数も多く「境内から溢れるほどの人がいた」と言うことですが、ひとまず、子ども相撲大会が復活したことは喜ぶと思います。私も、約60年前、6年生の時に5人抜きに出て、5人目で負けたちよっと悔しい思い出はまだ残っています。このお祭りが、校区民創意のもとで、楽しい行事の一つとして今後も引き継がれていくことを願っています。

《防災広場と小学校グラウンドの除草作業》10月22日：日曜日

★グラウンドゴルフ大会と小学校の研究発表の前にキレイにしました！★



会長を含めた11人で行っていきます。このことで、今回の作業のような打合せもスムーズにできて、また、部会長が各部会の状況も知れて横の連絡ができるようになりました。これからも、密な連携を保ちながらコミュニティの運営ができたと思います。

コロナ禍は様々な災いを我々にもたらしましたが、少しずつ落ち着きを取り戻しているようです。

でも、用心は怠らないようにしましょう！

コミュニティの行事では29日（日）のグラウンドゴルフ大会、大草野小学校の方は11月2日に研究発表があります。そこで、コミュニティの役員会では、参加者に気持ちよくプレーをしていただくことと、また学校の来訪者を歓迎するために、除草作業をすることにしました。コロナ禍の中では、感染拡大を防ぐために三役だけで役員会を行っていましたが、8月からはコロナ禍以前のように部



へ編集後記
《《変わらぬこと》》

昨年の同じ月の発行の「きずな」の編集後記を見てみたら、そっくりそのままだけでも使えそうな内容を書いていました。

急に冷えてきたこと、気候変動のこと、そして、世界の中で起こっている戦争や紛争のこと、国内のことでは、政党の足の引つ張り合いのことを書いていました。一年位では世の中変わらぬものなんですね。

それに加えて、つい最近のニュースで驚いたのは、アメリカ国内での銃による殺人事件の多さで、今年、現在で五百件を超えているとのことでした。

海外ドラマが好きで、FBIものなどをよく観ていますが、ドラマの中で悪人を倒すために使われるのは仕方がないにしても、市民生活の中で、多くの人がいる中で、ましてや学校の中で銃乱射事件が起きるなどはあつてはならないことのはずです。

アメリカは、「自分の身は自分で守る」という考え方が基本にあり、またその裏には銃器メーカーや銃保持を肯定する団体の存在や圧力などから銃規制になかなか踏み切れないジレンマがあるようです。しかし、恐怖心を取り除くことは、子ども達の未来に必要なことだと思います。